

巻 頭 言

情報科学研究センター所長

小 淵 洋 一

『城西情報科学研究』は、今回で第17巻になります。本研究は、第11巻から研究論文についてはレフェリー制度を導入し、新たにスタートしましたが、多くの先生にご投稿いただき、深く感謝致しております。

さて、今回は研究論文1編、研究ノート2編、報告5編の計8編、ご投稿いただきましたが、これは前回と同じで最多投稿件数です。今回画期的なことは、レフェリー制度を導入して以来研究論文のご投稿がこれまでありませんでしたが、英文の研究論文が1編ご投稿されたことであります。是非、これからも研究論文のご投稿をお願いいたします。

この2年、巻頭言でも触れさせていただきましたが、e-Learningの授業展開は城西大学においても大きな課題の一つであります。e-Learningの授業展開に際して問題となるのが、周知のようにe-Learningの教材作成であります。昨年の巻頭言でも申し上げましたように、情報科学研究センターではそのような教材作成の負担を軽減し、e-Learningの授業展開が進展するよう、新情報教育システムであるSCNL 2005においてハード・ソフト面の初期的な環境整備を行い、特にソフト面では教材作成と教材提示を支援するコースナビを導入するとともに、主に教材作成をサポートする常駐のスタッフ（赤嶺多恵子氏）を配置しています。

今年度（4月～12月）のコースナビの教員利用状況をみますと（詳しくは赤嶺多恵子氏の「情報科学研究センター報告」をご覧ください）、62名の先生が利用し、学部別では現代政策学部が最も多く、以下薬学部、経済学部、理学部の順になっています。一方、学生の利用状況をみますと、経済学部が最も多く、以下薬学部、経営学部、現代政策学部、理学部の順になっています。現在は、主に課題レポートの提出や資料配布等に利用されていますが、今後は本格的なe-Learningとしての活用を図っていきたいと思います。情報科学研究センターでは、教材作成をサポートする講習会を毎月1回のペースで実施しておりますので、それを利用されるか、常駐スタッフにご相談ください。

昨年、自らの担当科目の授業を改革すべく、センターのスタッフの協力も得て試行的に半年間一科目のすべての授業をビデオに撮り、コースナビを利用して授業ごとに課題提出させたいと取り組みましたが、所期の目的は達成できませんでした。来年度、もう一度チャレンジし、自らの授業の

改革に取り組んでいきたいと考えております。

今後とも、e-Learning の授業展開がし易い環境整備に努めていきたいと考えておりますので、ご指導、ご協力の程お願い申し上げます。